熊取町埋蔵文化財調査報告第33集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XIV

平成12年　3月

熊 取 町 教 育 委 員 会

はしがき

考古学や埋蔵文化財という言葉がとても親しみやすいものになってきたと思います。毎日のように全国各地の発掘調査が新聞等で報道されるなか、考古学上の定説さえ覆されるような驚くべき発見もありました。

そんな昨今私達の周辺では、住宅開発や道路の整備が着々と進んで景観が大きく様変わりしています。日常生活はとても便利で豊かなものになりましたが、そんな繁栄とひきかえに、地域整備に伴って貴重な遺跡が次々と失われていることは案外私達の意識の中には薄いのではないかと思います。

熊取町教育委員会は皆様の御協力と御理解を得ながら、毎年50件程の緊急発掘調査を実施しています。

本書は平成11年度国庫補助事業として実施した発掘調査での実績報告書として作成したものです。本報告書の特徴として、小規模な個人住宅の建築にともなう発掘調査の成果を収録していますが、今後多方面の研究に役立てられることを願っています。

最後になりましたが、本年現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成12年３月

熊取町教育委員会
教育長　甲田　太三郎

例　　言

1．本書は、平成11年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査の概要報告書である。

2．調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係職員前川　淳、永井　仁を担当者として、平成11年4月1日に着手し、平成12年3月31日をもって終了した。

3．本書は、報告書の作成の都合上、平成11年4月1日から平成11年12月29日までの発掘調査成果及び、平成10年度事業で昨年報告できなかった平成11年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果を掲載することとした。

4．本書における図面の標高は、T．P．（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は地図以外については磁北を示すこととした。

5．本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。

6．本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。
尾上智史、小野美雪、石松　直、関井澄子、山本恵子、伊庭　勉、宇沢克之、岡本利市、辻野　　勝

7．発掘調査現場で使用した機械類は、株式会社竹口文化財から借上げた。

8．本書の執筆は前川淳が行った。

目　　次

第１章　はじめに……1

第２章　地理的環境と周知の遺跡……1

　第１節　地理的環境……1

　第２節　周知の遺跡……4

第３章　調査成果の概要……5

　第１節　久保城跡について……5

　第２節　久保城跡98－４区の調査……6

　第３節　久保城跡98－５区の調査……8

　第４節　祭礼御旅所跡98－１区の調査……11

　第５節　東円寺跡99－１区の調査……13

　第６節　久保城跡99－１区の調査……15

　第７節　五門遺跡99－１区の調査……17

　第８節　大久保Ｂ遺跡99－１区の調査……19

第４章　まとめ……21

第1章　はじめに

平成11年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は22件（平成11年12月29日現在）であり、昨年の同時期は36件であったことから、減少傾向である。

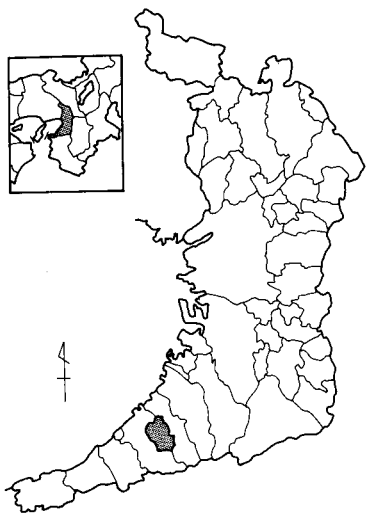
本書では平成11年度国庫補助事業として実施した、東円寺跡１件、久保城跡１件、五門遺跡１件、大久保Ｂ遺跡１件と、平成10年度事業で実施した久保城跡２件、祭礼御旅所跡１件を合せた７件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成11年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
久保城跡 98−4区	久保444－8	奥野　幸治	178.16㎡	19990201～0203
久保城跡 98−5区	久保1681－2	田中　誠	258.49㎡	19990215～0216
祭礼御旅所跡98−1区	桜ヶ丘一丁目1166	坂上　元史	154㎡	19990325
東円寺跡 99−1区	野田二丁目2407－1、2	藤原　正美	186㎡	19990415
久保城跡 99−1区	久保1575－3　他1筆	奥野　純永	242.78㎡	19990909
五門遺跡 99−1区	山の手台一丁目2045－4	久保　清	179.40㎡	19991012～1013
大久保B遺跡 99−1区	大久保中一丁目168	須川　勝雄	334.78㎡	19991104

第２章　地理的環境と周知の遺跡

第１節　地理的環境



熊取町の位置

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19k㎡を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約３分の２を占めている。地域別に見ると、町南部においては泉南地域の基本山地となる和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は見出川・雨山川・住吉川の３水系が存在している。３河川とも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。いずれの河川も下流部が他市域を流れていることに加えて、本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの潅漑用の溜め池を目にすることが出来る。

第２節　歴史的環境

町内の遺跡は現在41箇所を数える。

縄文時代の遺跡は発見されていないが、東円寺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器と石鏃が検出されているので、東円寺跡は縄文時代からの複合遺跡である。

弥生時代の遺跡も発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第Ⅴ様式を示す土器が大量に検出され大久保Ｅ遺跡となったが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、これらは開発で消滅している。しかし開発では副葬品や古墳の石材等が発見されたということもなく、これらが古墳であった可能性はほとんどない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-１区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥Ⅴ様式といわれる土師器や須恵器が出土した。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡87-１区の調査で建物４棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成11年７月熊取町七山で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が宅地開発の発掘調査で検出され、熊取町第41番目の遺跡である七山東遺跡となった。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代とされている。また平成８年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。野田の東円寺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡では瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。

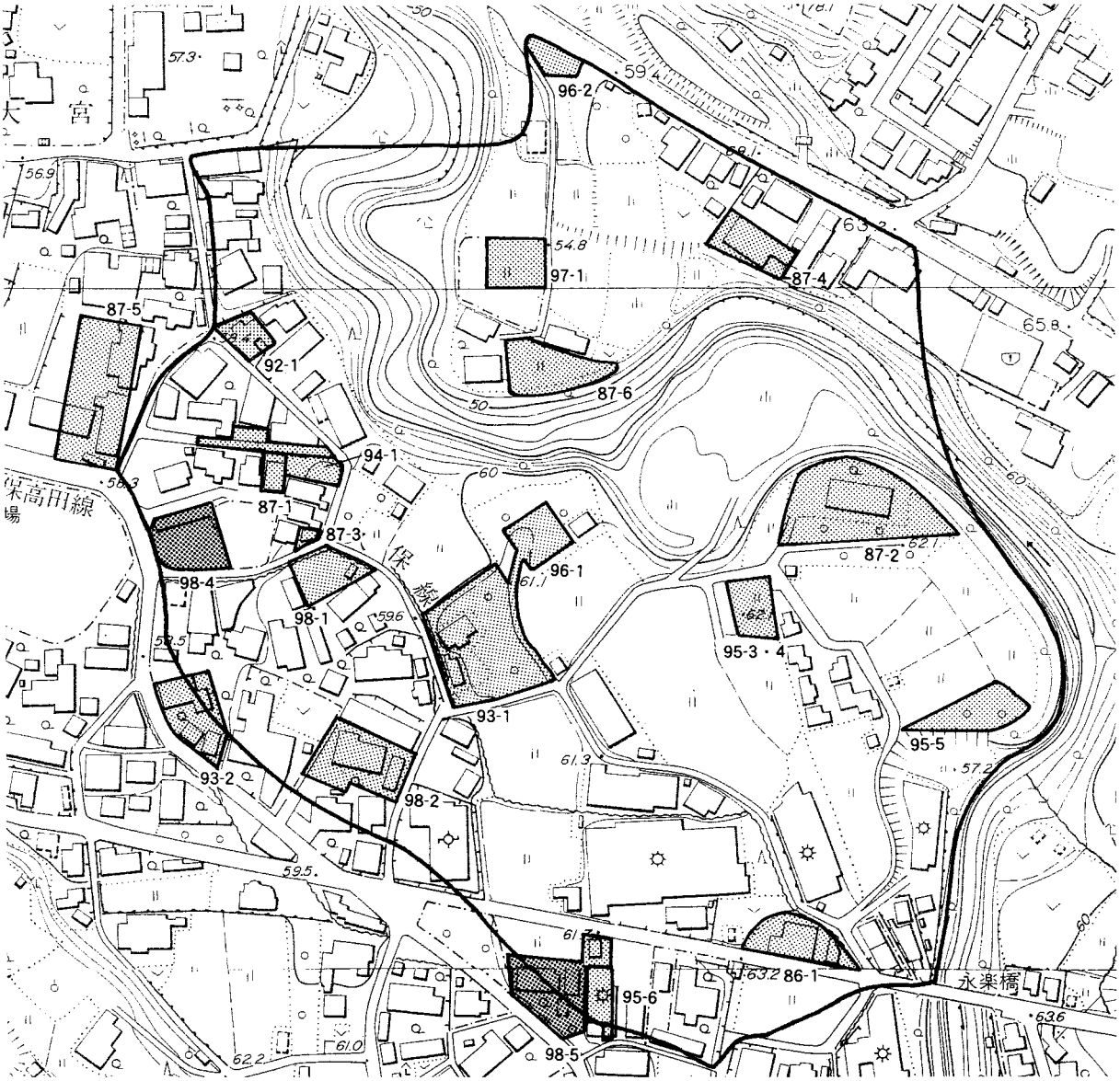
また近世以降の遺跡としては、五門の中家住宅、中家住宅周辺遺跡、大久保の降井家屋敷跡などがあり、同時代に繁栄した大庄屋の生活ぶりを物語るような陶磁器や土師器の大甕、多数の瓦片、埋桶遺構、溝（堀？）などが検出されている。

熊取町遺跡分布図

周知の遺跡一覧表

No.	周知の遺跡名	種類	時代	地目	立地	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	江戸期から明治期頃の陶磁器等出土
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉	宅地	丘陵腹	15～16世紀の土師器を検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	
6	東円寺跡	寺院跡	弥生～江戸	宅地	平地	縄文・奈良・鎌倉～室町・江戸の複合遺跡
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	
8	成合寺遺跡	墓地	室町	畑地	丘陵腹	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	土塁・堀切等の構築物を確認している
10	雨山遺跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	須恵器等を採取するも現在消滅
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	享徳4年銘（1445）の五輪塔の地輪出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	的場・矢の倉等の字名、瓦器片多数出土
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	五門・紺屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	毘沙門堂跡、現在消滅
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	大森神社神宮寺、現在消滅
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	敷地を区画する溝や江戸初期の陶磁器等
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初中心の遺物出土
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	
32	千石堀遺跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	天正年間（1573～92）の雑賀衆徒の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	平安末～鎌倉初の遺構・遺物検出
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	13～14世紀の瓦器等出土
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
37	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初の遺物多数出土
38	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	13～14世紀の瓦器等出土
39	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	江戸期以降の陶磁器等多数出土
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	鎌倉時代以降の遺物の包含層
41	七山東遺跡	散布地	古墳～室町	宅地	平地	奈良時代の須恵器を多量に含む包含層

第３章　調査成果の概要



第１節　久保城跡について

久保城は熊取町における発掘調査で最も成果のあがっている野田の東円寺跡から西南西へおよそ１km下がった熊取町久保において、小字名に城関連の名があるところから、その範囲が推定されているものであるが、目下城郭に関係するような遺構は一切見つかっていない。また近年の調査例の増加とともに古くは古代からの土器が出土することもわかってきた。また大方の調査地点で瓦器など中世頃の土器破片を含む包含層が分布することが判明してきており、役場の所在する野田地区における東円寺跡の状況とほとんど変わらない様相をみせている。

第２節　久保城跡98－４区の調査

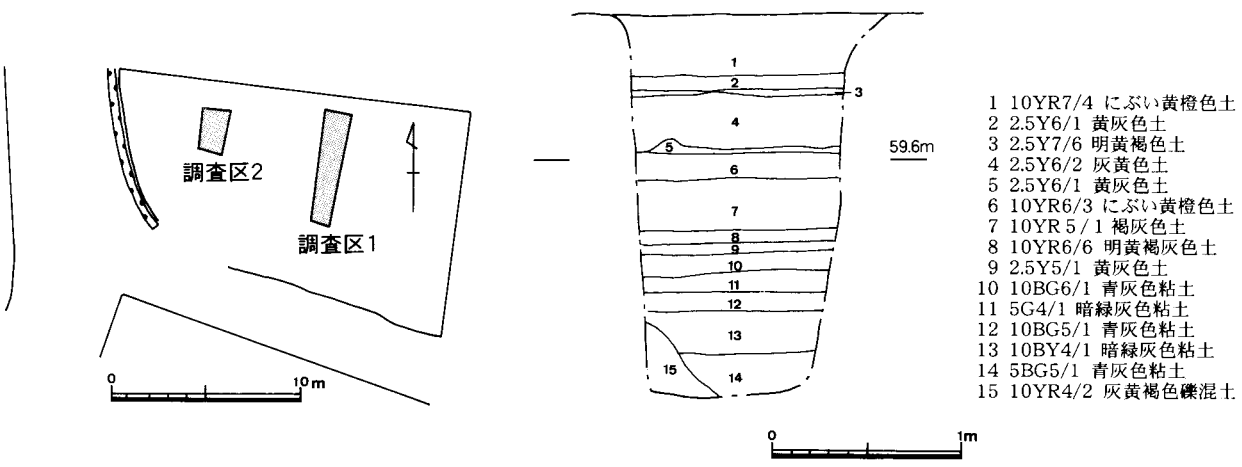
調　査　地　　久保444－8

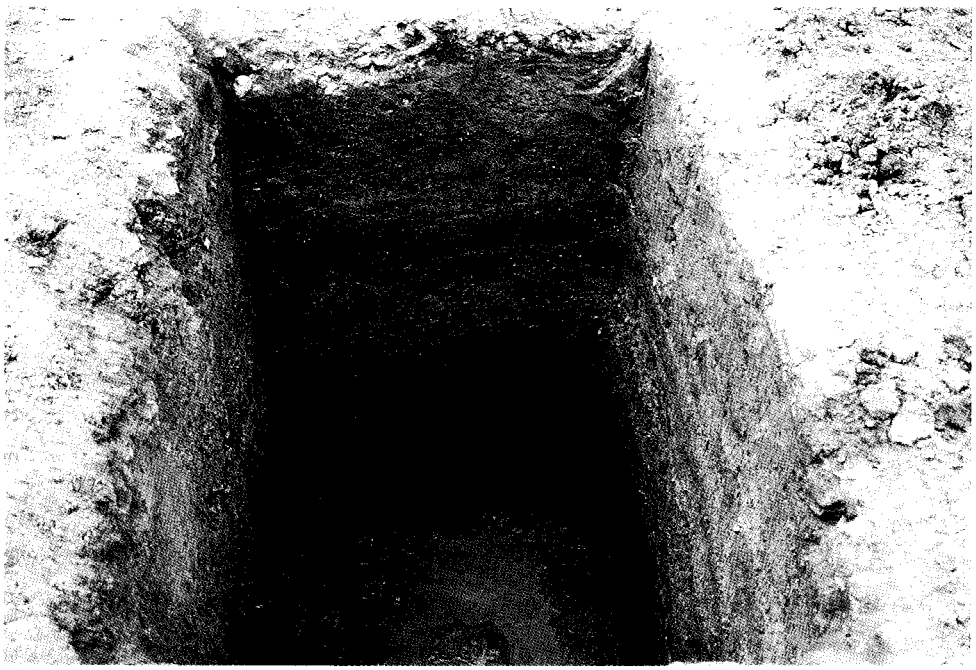
調査期間　　平成11年２月１日～３日

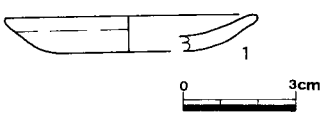
位置と環境　　調査地点は見出川の中流左岸部段丘上に位置するものと思われ、熊取町立グランド八幡池青少年広場のすぐ東側で、起伏のない久保の集落の中に所在する。前頁図のように調査地点から約100m東側の場所における平成10年度の発掘調査（久保城跡98-１区）では、飛鳥時代・奈良時代から中世にかけての遺構と遺物が豊かに検出されており、その一連の成果が期待された。

調査内容　　調査は個人住宅の新築工事に伴うものであり、調査地に２ヶ所の調査区を設定し、機械掘削により実施した。調査区１は図のように大きく機械で掘削したが、以前この場所に建てられていたとされる工場の基礎工事によって完全に破壊をうけていた。さらに西側の旧池寄りに調査区２を設定し機械掘削したところ、図のような土層が観察された。現地表面下－0.7m～1.0 mの土層は湧水も多く全体に青灰色に変色しており、一見してこれが旧八幡池の堆積土および旧水面であったことが推測される。これらの層からは遺物は検出できなかったが、史料によるとこの八幡池は江戸時代初期に造られたとされている。またこの池土層下には層厚約80 cmの中世の包含層が存在している。この層からは図のような土器が少量検出されている。

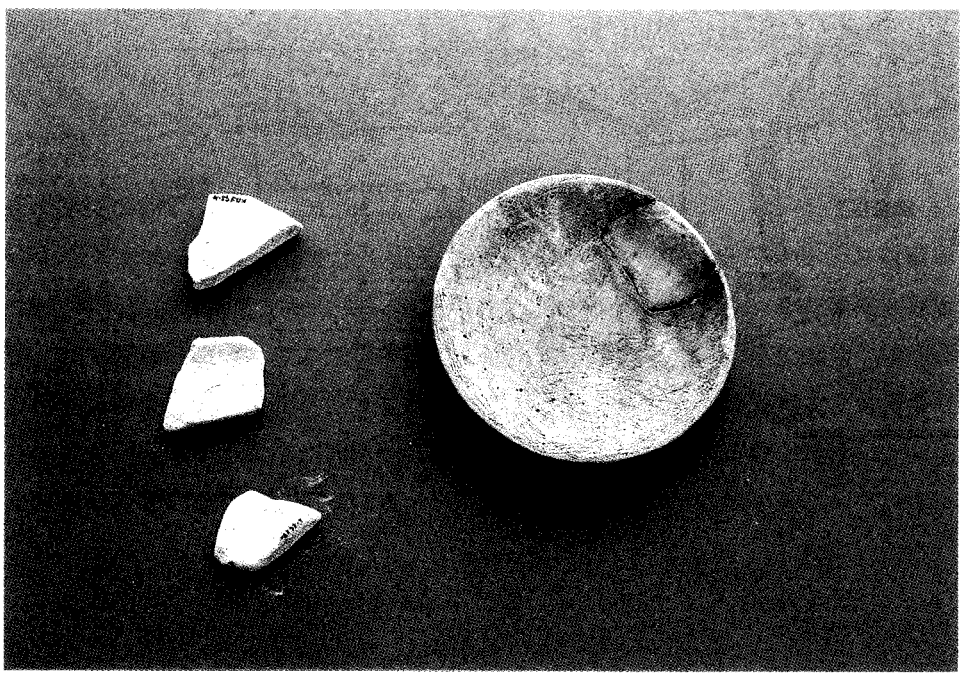
小　　結　　瓦器破片を含む中世の包含層の上に旧八幡池の堤体として築かれた盛土層が観察された。包含層は池底に没したためか緑灰色に完全に変色していた。







遺　物　遺物は瓦器椀片３点、瓦器皿片１点、須恵質土器片２点、中世土師器片９点、陶磁器片１点が検出された。遺物の中心は中世である。近世の遺物は撹乱層からの出土である。このうち実測できたのは写真の瓦器皿１点である。また土師器片には写真のような室町末期の皿の小破片３点がある。この時期の皿は町内では平成７年度の来迎寺本堂95-1区の調査で多数出土している（未報告）。

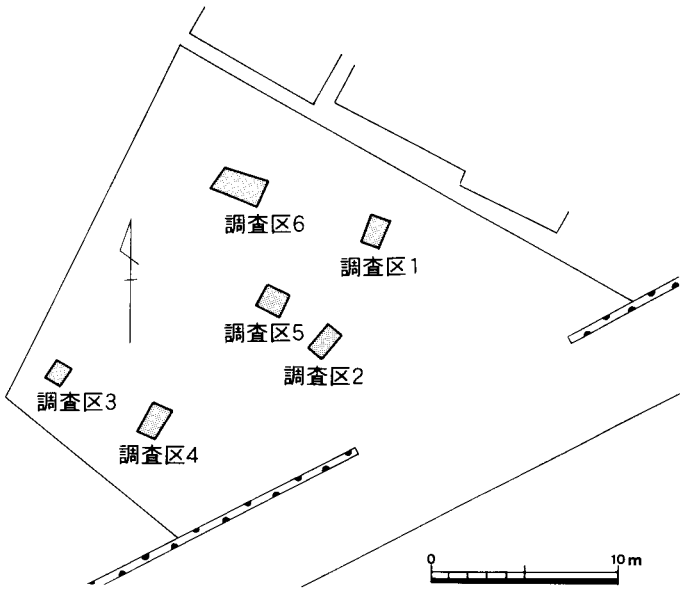


第2節　久保城跡跡98－5区の調査

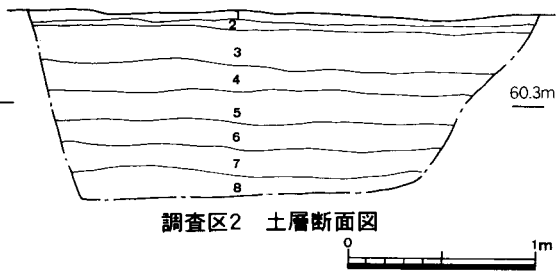
調　査　地　　久保1681-2

調査期間　　平成11年2月15日～16日

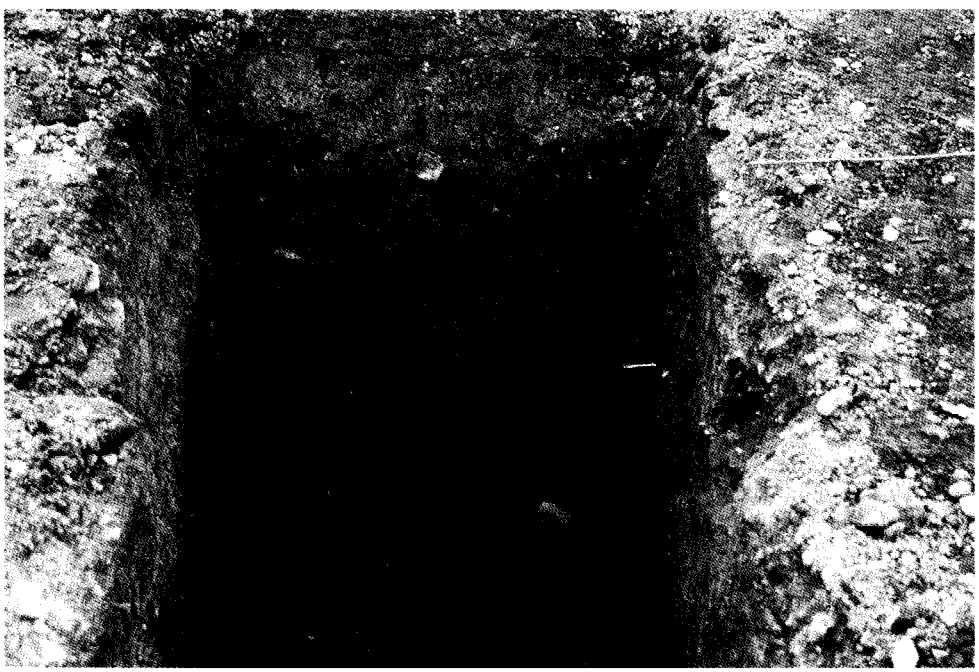
調査内容　　調査は図のように6ヶ所の調査区を設定し、機械掘削により実施した。両調査区とも図のような土層であり、中世包含層がおおまかに2層確認できる。この中から古代にまで溯る土師器や多数の瓦器の破片が検出された。 調査面積の狭小さに比して多くの遺物の検出を見たため、さらなる本格的な発掘調査も検討したが、予定建築物の基礎工事が遺物包含層に及ばないために、今回は埋没保存することとした。



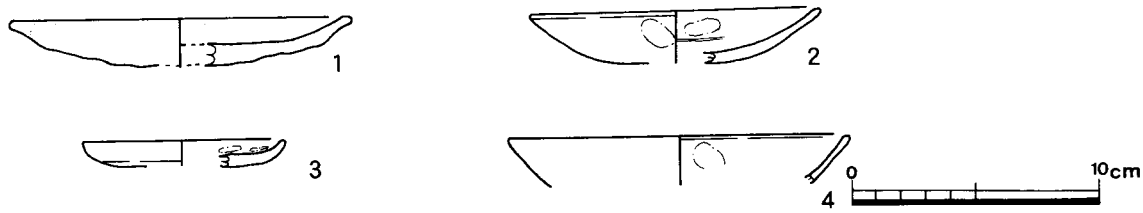
1 旧耕作土
2 床土
3 10YR7/2 にぶい黄橙色土
4 10YR6/4 にぶい黄橙色土
5 2.5Y7/1 灰白色土
6 10YR5/3 にぶい黄褐色土
7 10YR7/4 にぶい黄橙色土
8 10YR7/1 灰白色土（地山）

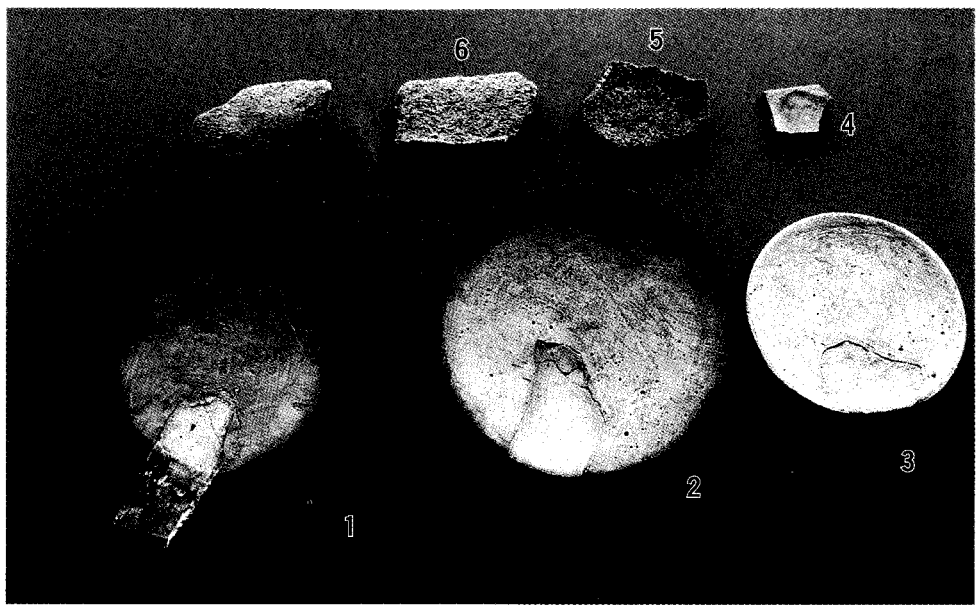


調査区2　土層断面図



調査区2





遺　物　今回の調査で出土した遺物を詳細にすると、土師器破片42点、瓦器破片53点、須恵質土器（東播系こね鉢）破片１点、陶磁器破片５点、瓦片３点である。このうち実測できたのは写真の4点のみである。

1　瓦器　椀もしくは皿　口縁部および体部　口径14.0cm

瓦器の椀または皿で、器壁が極めて厚く高台がない。編年上いわゆるⅣ期末に分類されるものと考えられるが、体部の立上がりが異常な程偏平である。14.0cmと大振りな口径をしている以上器種は椀と考えた方が無難であるが、一見して皿に見える不可思議な瓦器である。また特徴として重ね焼の痕跡と考えられるカーボンの明瞭な境界が見られる。この土器は内面中央部分だけカーボンが無く、外面は口縁部分にのみカーボンが見られる。実測図のように極めて偏平な角度を与えると、内外面でカーボンの境界のラインが一致する。

2　瓦器　椀　口縁部および体部　口径11.4cm

尾上編年のⅣ期中後半期のもので、1と比べて器壁がかなり薄手である。重ね焼の痕跡が明瞭である。

3　瓦器　皿　口縁部および体部　口径7.2cm

瓦器皿については、本町の各調査で出土例があるので今後比較していきたい。

他に瓦器椀の口縁部分が３点あるが、おそらく同時期のものであろう。瓦器の末期を示す退化した偏平な瓦器椀は、熊取町ではこれまでほとんど出土例のない貴重な発見である。

5　土師器　甕　口縁

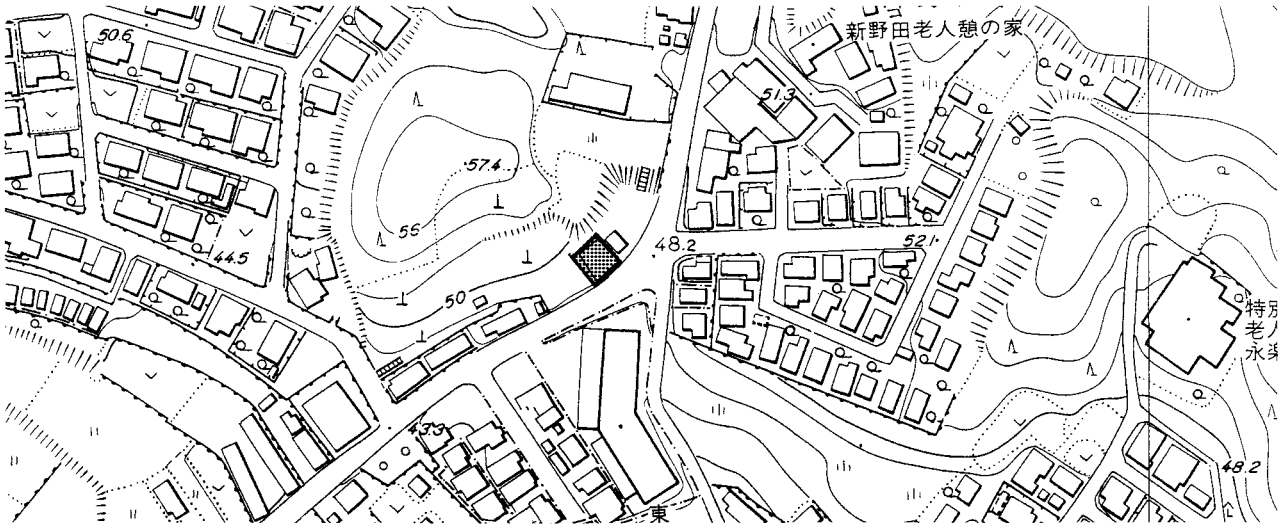
粗製で全体が焦げたように黒い。

6　土師器　甕　口縁

粗製であるが、4との差は歴然である。

小　　結　このように久保城跡98－5区の調査では予想に反して出土遺物の量が多く、奈良時代以前にまで溯る土師器が出土したことの意義は大きい。前節でも触れたように、平成10年度の久保城跡98－1区の調査では飛鳥時代に開削されたと考えられる溝と多数の土師器・須恵器が検出されており、今回の出土は本遺跡の性格と広がりによき指標となった。また今回出土した瓦器は、瓦器の最も新しい時期のものが検出されており、熊取町の中世を考える上で重要であるし、熊取町役場のある野田の東円寺跡との比較をする上でも興味深い。また周辺での調査の成果を照合すると今回の久保城跡98－5区の調査地点を含むさらに南側の久保集落にも同様の遺跡が存在していることがほぼ確実であるとの実感を得た。熊取町の歴史を考える上でこれからの久保城跡での発掘調査における成果は非常に重要であると確信をもっている。

第３節　祭礼御旅所跡98－１区の調査



調　査　地　　桜ヶ丘一丁目1166

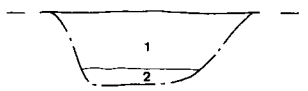
調査期間　　平成11年３月25日

位置と環境　　祭礼御旅所跡は上図のように熊取町役場の所在する野田から町最北の七山へ向かう町道五門七山線沿いの低丘陵頂上に比定されている遺跡である。祭礼御旅所とは江戸時代に神輿を担いだ人々が休息したといわれる場所で、現在丘陵裾から中腹にかけては斜面を切り開いて五門墓地が営まれている。　調査地点はこの祭礼御旅所があったとされる丘陵の南側で、町道五門七山線に接している地点である。ここは五門墓地の東端で、墓地と同様丘陵を削平して平地になっているが、従来から民家などが存在した形跡はない。

この五門墓地には中世にまで溯ると考えられる五輪塔などが存在するが、墓地が営まれた年代は不明である。調査では旧墓穴を検出する可能性もあった。

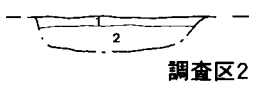
調査内容　　工事は個人住宅の新築で、図のように調査区を設定して、機械掘削を実施した。造成時の薄い整地土層の直下に、削平痕のある丘陵の地山土が検出され、埋蔵文化財は一切検出されなかった。

小　　結　　祭礼御旅所跡で発掘調査を実施したのは今回が始めてであったため、遺跡の性格を究明する上でも期待されたが、残念ながら埋蔵文化財は一切検出できなかった。果たして今後の調査で祭礼御旅所を類推させるような遺構・遺物が検出できるであろうか。

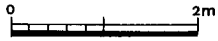


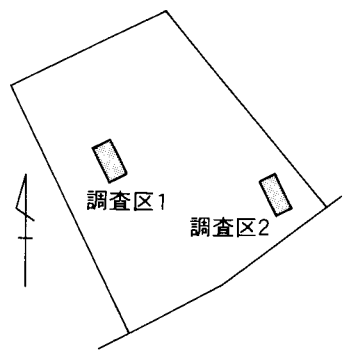
調査区1　土層断面図

1　現代盛土
2　地山



調査区2　土層断面図

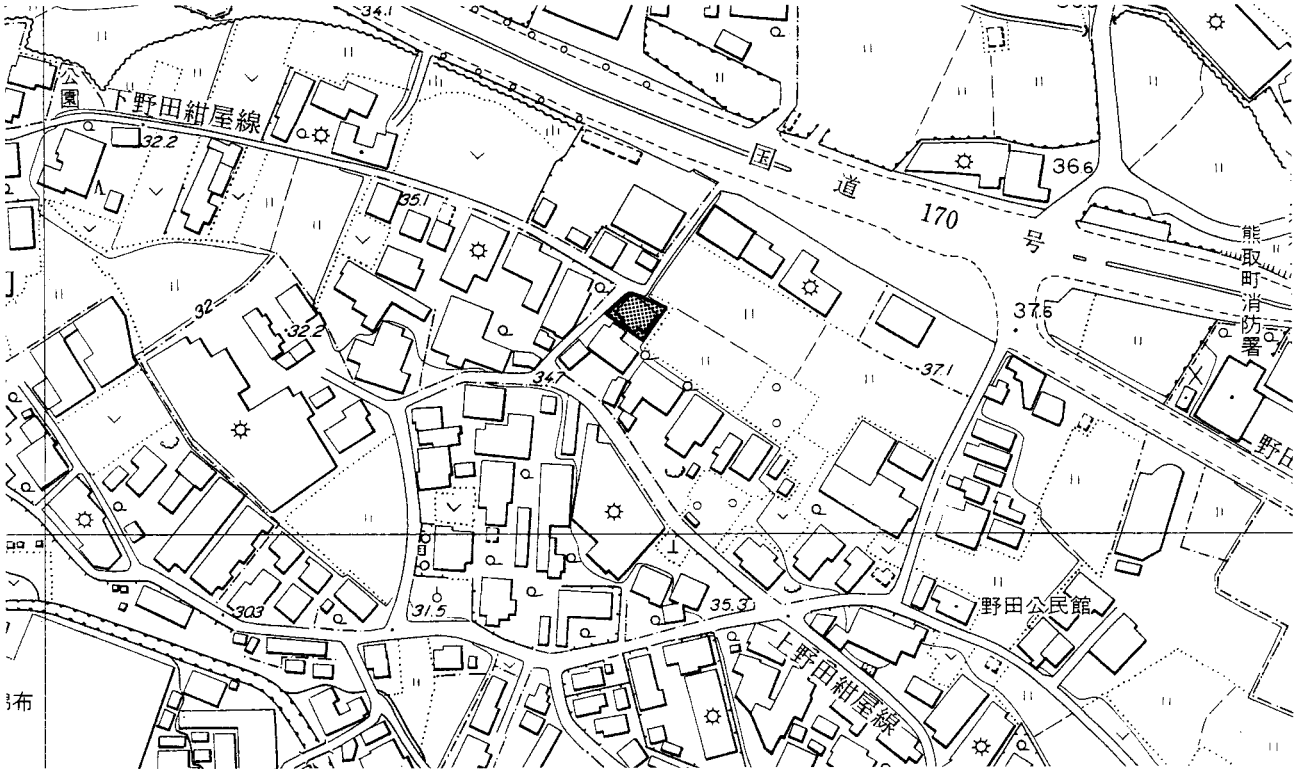




調査区 1

調査区 2

第４節　東円寺跡99－１区の調査



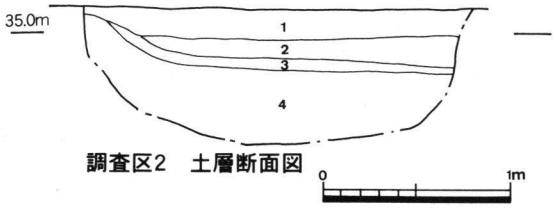
調　査　地　　野田二丁目2407-1、2407-2

調 査 期 間　　平成11年４月15日

位置と環境　　東円寺は、野田地区の熊取町役場の南側一帯にあったとされる寺院跡である。文献では元来「東曜寺」と称していたとされる。これまでの発掘調査では平安時代末期頃の軒丸・軒平瓦が出土したのをはじめ、瓦器、土師器、須恵器、縄文時代の石器など多くの遺物が出土しており、複合遺跡としての性格を呈している。しかし今日まで寺院関連の確実な遺構は検出されずにその伽藍配置等は全く不明である。今回の調査地点は東円寺跡の西側で、現在の野田集落の只中に所在している。周囲を見渡す限り地形の起伏はなく、南側に流れる住吉川に向かって徐々に傾斜し、従来水田などが営まれていたようである。周辺ではこれまで数度同様の個人住宅建設に伴う国庫補助の発掘調査が行われたが、東円寺に関連する遺構・遺物は一切見つかっておらず、所々で瓦器片を中心とした中世の遺物を含む包含層が検出されている。

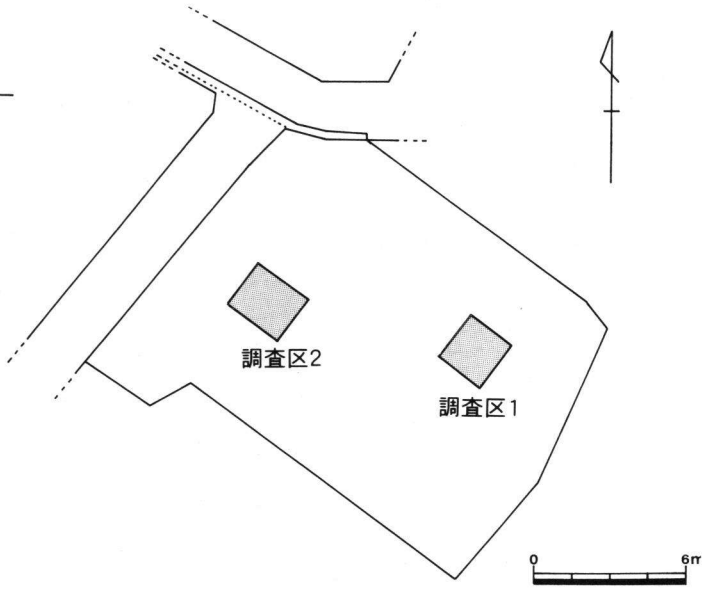
調 査 内 容　　工事は個人住宅の新築で、図のように調査区を設定して、機械掘削を実施した。造成にかかわる薄い整地土層の直下に、既に大きく削平を受けた地山が検出された。埋蔵文化財は一切検出されなかった。

小　　結　　残念ながら東円寺跡の遺跡の性格を補うような成果は一切なかった。地山は完全に削り出されており、この場所が従来から殆ど高さが変わっていないことはわかった。周辺では地表下－60cm程で中世の包含層が検出され、中世には水田を形成していたことがわかっているが、今回の調査地点は元来屋敷地として繰り返し利用されていたのかもしれない。



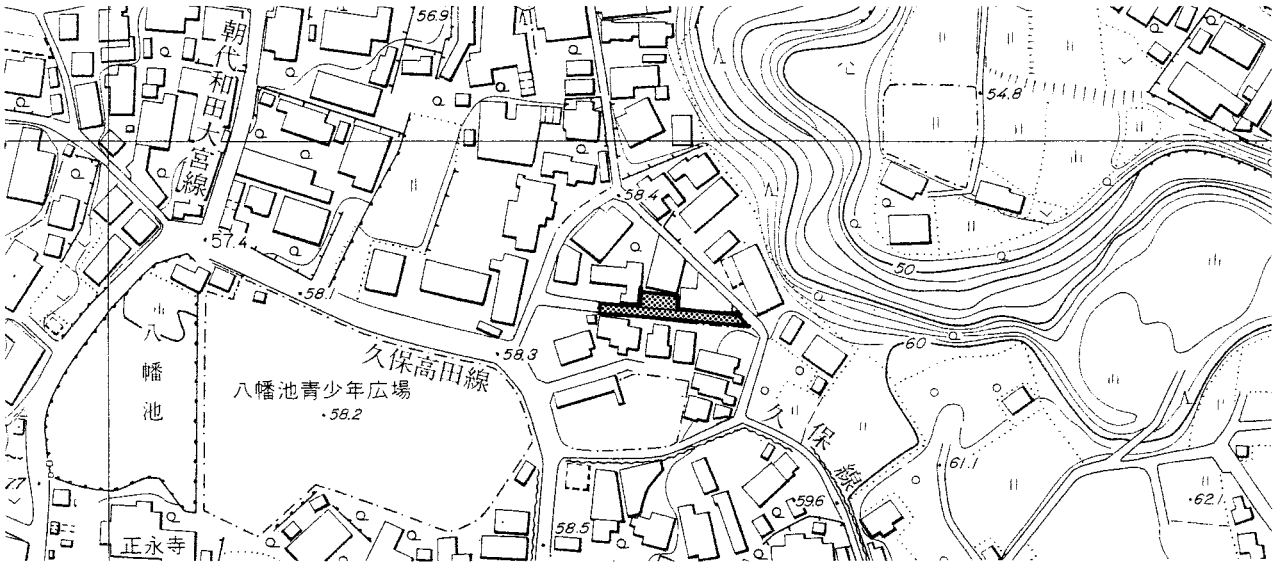
調査区2　土層断面図

1 2.5Y5/1 黄灰色砂混土
2 10YR7/2 にぶい黄橙色砂混土
3 10YR6/2 灰黄褐色砂混土
4 10YR7/8 黄橙色粘土（地山・径2cm以上の礫を多く含む）



調査区 2

第５節　久保城跡跡99－１区の調査



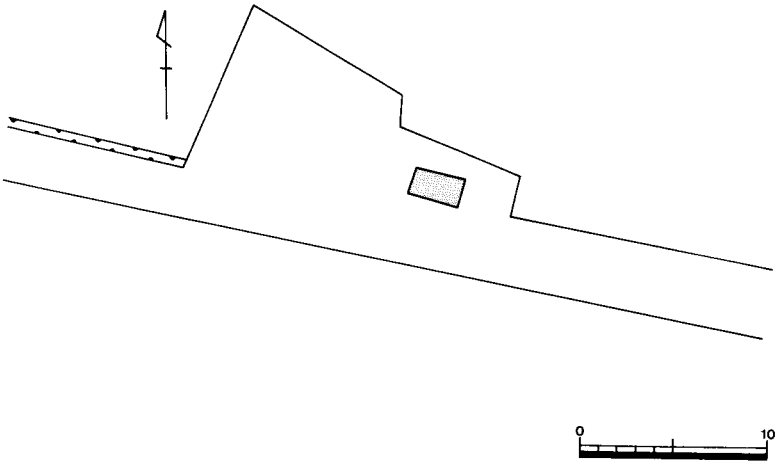
調　査　地　　久保1575-3

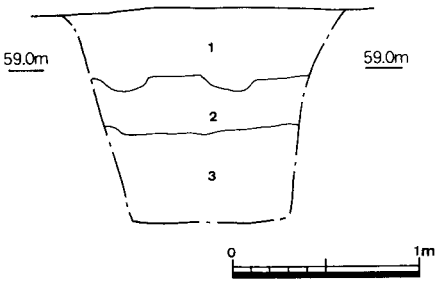
調査期間　　平成11年９月９日

位置と環境　　今回の調査地点の南側で実施された久保城跡98－１区の調査では、飛鳥時代～奈良時代を中心とした遺物と、飛鳥時代に開削された溝が検出されている。今回はそれらの古代の遺構の北への広がりを確認することと、従来からその存在自体が疑問視されている久保城を探すことに力点が置かれた。調査地点は久保集落の北辺に位置し、周囲合せて平坦な地形を呈している。地元の住民の話によれば、そこには元来淵のような池があったということであった。

調査内容　　調査は１ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により実施した。両調査区とも造成時に形成された盛土があり、直下に削平された砂礫質の地山が見られた。遺構・遺物は一切ない。

小　　結　　土層を観察する限り、調査地点は中世以前から集落が営まれるような安定した環境になかったものと考えられる。東北方には大井出川が流れているが、小河川を含め過去に氾濫を繰り返した結果生じた地形であるようだ。



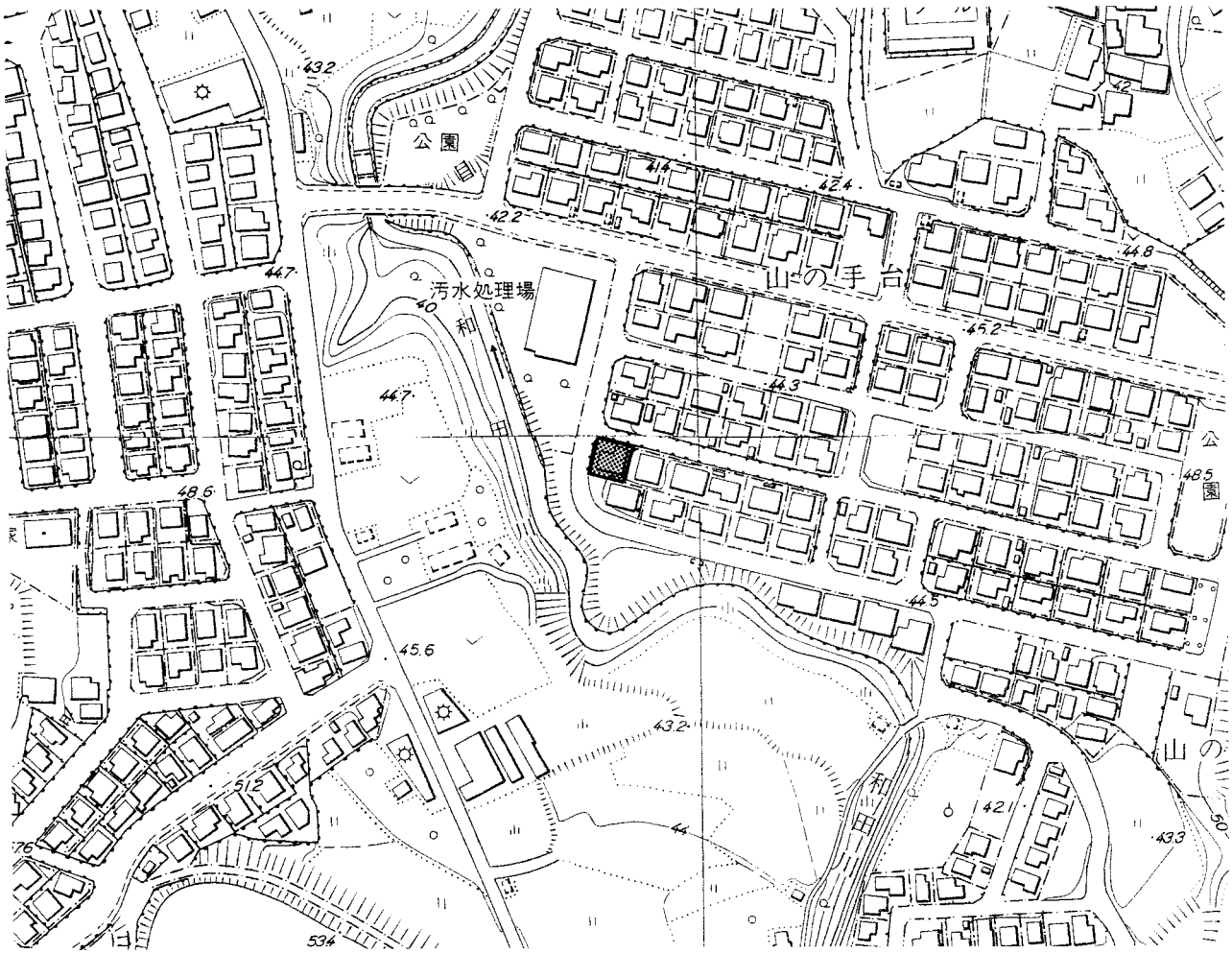


1 バラス・現代盛土
2 2.5Y7/6 明黄褐色砂混土（地山）
3 10YR5/4 にぶい黄褐色土

調査区壁面

調査区全景

第６節　五門遺跡99－１区の調査

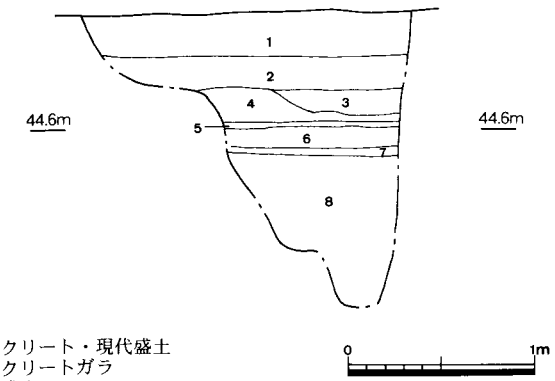


調　査　地　　山の手台一丁目2045-4

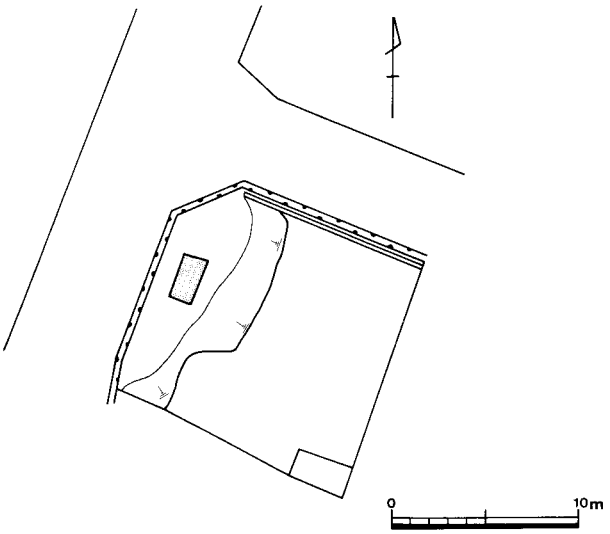
調 査 期 間　　平成11年10月12日～13日

位置と環境　　五門遺跡は熊取町役場のある野田地区からまっすぐ南へ約700m程下った丘陵の南斜面側に所在している。この丘陵は昭和57年頃から山の手台住宅街として大規模に造成され、一挙に景観は変貌してしまったが、かつての航空写真を見る限り、従来は雑木林と水田・畑が広がっていたようである。この丘陵には他に五門古墳と五門北古墳という古墳参考地があるが、これらは伝承や出土品によるものではなく、造成で削平を受ける以前は古墳のようなマウンド状の高まりがあったことによるものらしい。またかつて五門遺跡では須恵器の破片が採取されたというが、それが古墳時代のものであったかどうか定かではない。なお現況は完全に平坦な住宅地になっており、道路を一本挟んで南に小さな畑がある。さらにその南には小さな峡谷状に河川が流れている。

調 査 内 容　　調査は１ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により実施した。両調査区とも住宅造成の際に地層は大きく破壊を受けており、その上に大幅に盛土が行われている。造成時の客土の下には現代の耕作土が見られ、その直下には耕作土系の包含層が１層あり、地山に至っている。包含層からは瓦器椀片、須恵質土器片、土師器片、石器片などを検出したが、土層の色合いからして、近世の耕作土ではないかと思われる。遺構は見られなかった。

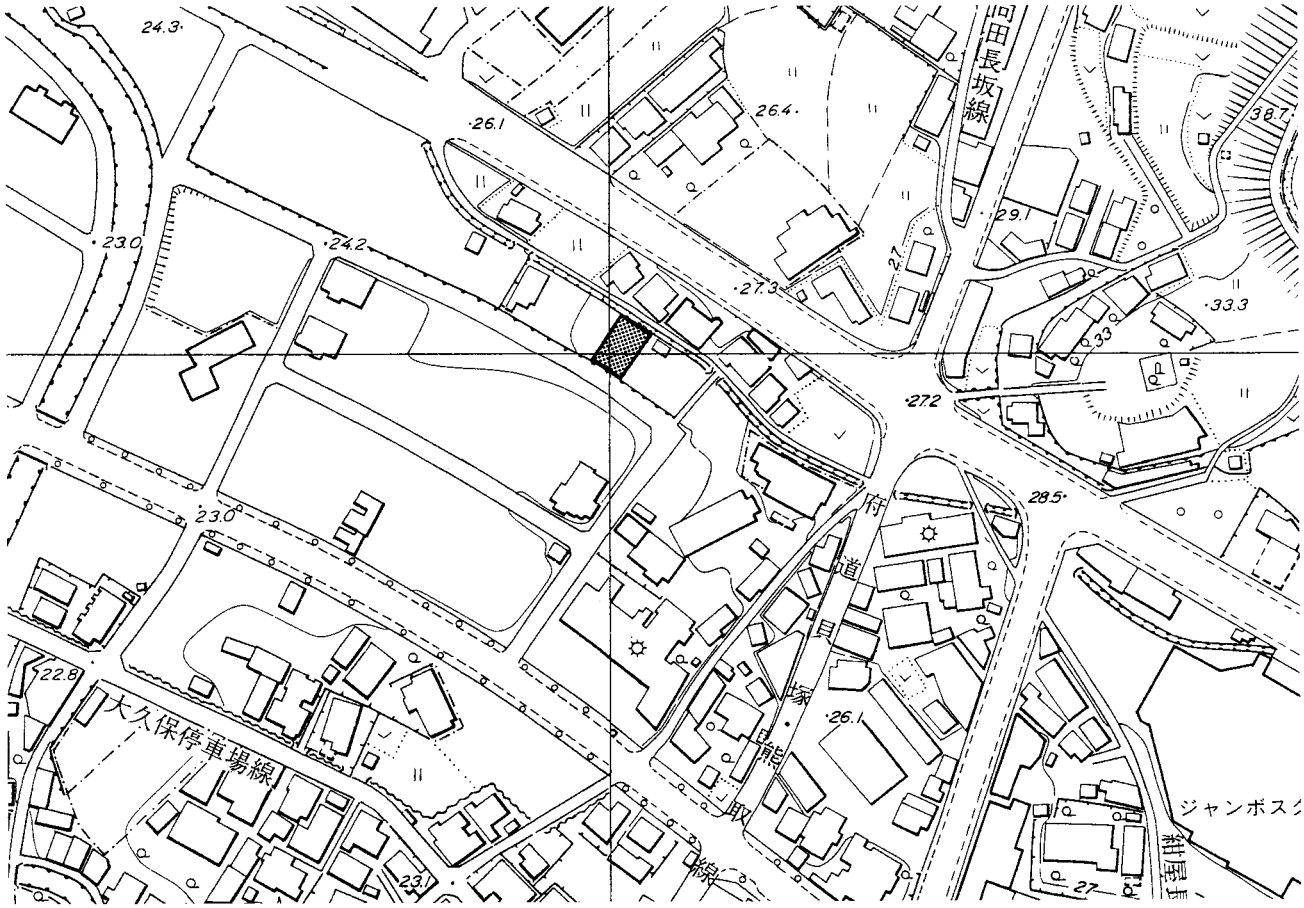


1 コンクリート・現代盛土
2 コンクリートガラ
3 現代盛土
4 旧耕作土
5 床土
6 10YR7/2 灰白色土
7 7.5YR7/8 黄橙色土
8 10YR7/1 灰白色土+10YR7/6明黄褐色土



小　　結　五門遺跡が古墳時代からの遺物散布地であることには疑問が残った。遺物には瓦器片を含んでおり、中世からの経緯が考えられるが、この包含層が客土である可能性もある。周辺は既に大きく様変わりしているが、今後調査を積み重ねることによって、実体が判明してくるだろう。

第７節　大久保Ｂ遺跡99－１区の調査



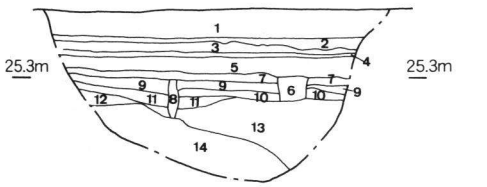
調　査　地　　大久保中一丁目168

調査期間　　平成11年11月４日

位置と環境　　大久保Ｂ遺跡はJR熊取駅の東側、国道170号線の南側一帯に範囲があり、古代の集落跡を中心に近世までの複合遺跡である。過去の調査では集落そのものを示す建物遺構は発見されていないが、住居を区切っていたと考えられる溝が２本検出されたことがある。一帯は駅前整備事業で計画的に造成された広大な平坦地でマンション・住宅・工場・店舗が営まれている。調査地点はこの大久保Ｂ遺跡の最も北寄りに所在する宅地であるが、周辺には僅かに畑地が残されており、旧状が保存されている可能性があった。

調査内容　　調査は２ヶ所の調査区を設定し、機械掘削により実施した。両調査区とも同様の地層を見せ、近年まで行われていた耕作を示す層が存在する。また期待された中世・古代の土層は見られなかった。遺構・遺物は一切発見されなかった。

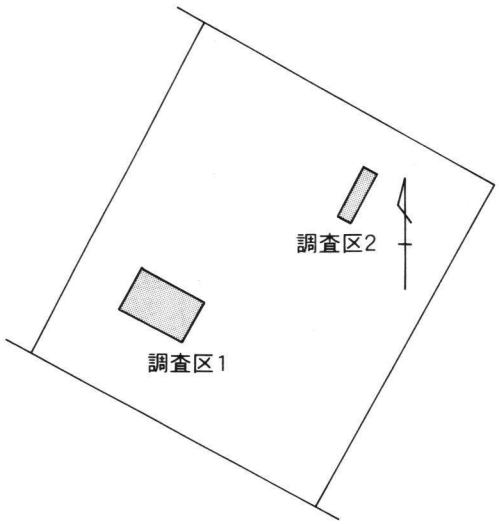
小　　結　　期待された成果はなく残念であるが、これまで本遺跡の北辺地域では入念に調査を実施しており、同様になんら遺構・遺物が検出されていないことから、大久保Ｂ遺跡の中心的性格である古代の集落跡の範囲はこの調査地点の付近までは及んでいなかったと考えられる。



調査区1　土層断面図

0　2m

1 旧耕作土
2 7.5YR6/1 褐灰色土
3 10YR7/8 黄橙色土+10YR7/4にぶい黄橙色土
4 10YR7/8 黄橙色土
5 2.5Y7/8 黄色土
6 2.5Y7/2 灰黄色土
7 2.5Y8/2 灰白色土
8 2.5Y5/2 暗灰黄色土
9 2.5Y7/4 浅黄色粘土
10 10YR7/6 明黄褐色粘土
11 N8/0 灰白色粗砂混土
12 2.5Y8/2 灰白色粗砂
13 2.5Y8/1 灰白色粗砂粘土
14 2.5Y8/1 灰白色粗砂+10YR6/8　明黄褐色粗砂混粘土



0　10m

第4章　まとめ

以上、久保城跡、祭礼御旅所跡、東円寺跡、五門遺跡、大久保Ｂ遺跡の５遺跡７件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果を述べてきた。

今回、祭礼御旅所跡98-1区、東円寺跡99-1区、久保城跡99-1区、五門遺跡99-1区、大久保Ｂ遺跡99-1区、では特に新たな知見は得られなかった。

久保城跡に関しては中世の城郭につながる成果はなかったが、久保城跡98-4区の調査では旧八幡池の堤体と考えられる盛土層が中世の包含層の上に築かれていることが確認でき、江戸時代に大規模な溜池築造工事を伴う灌漑農耕が行われたことがうかがわれた。

久保城跡98-5区の調査では古墳時代～奈良時代頃の土器片と中世の分厚い包含層が検出された。近年の久保城跡での各調査でも同様の調査結果が得られており、久保地区の広い範囲が現在の熊取町役場がある野田地区と同様にかなり古くからの歴史をもつことが考えられるようになった。

また久保地区は熊取町役場のある野田地区と異なって、近年の乱開発を免れ、その地中には包含層が比較的良好に残存していることもわかってきた。野田では発掘調査体制が整う以前の昭和期において地山面まで削りとられるような開発が多かったため、発掘調査を実施したとしても良好な調査結果を得る機会が少なくなったが、久保をはじめとする熊取周辺地域では、熊取町の歴史を埋蔵文化財調査から究明できる資料が豊富に残存している可能性が高いものと考えられ、以後の調査で大きな成果があがることを期待している。

報告書歯抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書
巻次	XIV
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第33集
編著者名	前川　淳
編集機関	熊取町教育委員会
所在地	〒590－0495　大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
発行年月日	西暦2000年3月

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
久保城跡 98－4区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保448－8	27361	15	23° 23′ 33″	135°22′16″	19990201 19990203		個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
久保城跡 98－5区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保1681－2	27361	15	23° 23′ 30″	135°22′ 18″	19990215 19990216		個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
祭礼御旅所跡 98－1区	大阪府泉南郡 熊取町桜ヶ丘 一丁目1166	27361	15	23° 24′ 06″	135°21′22″	19990225	2	個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
東円寺跡 99－1区	大阪府泉南郡 熊取町野田 一丁目2407-1.2	27361	6	34° 23′ 55″	135°21′22″	19990415		個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
久保城跡 99－1区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保1575－8	27361	15	23° 23′ 33″	135°22′16″	19990201 19990203		個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
五門遺跡 99－1区	大阪府泉南郡 熊取町山の手台 一丁目2045－4	27361	15	34° 23′ 28″	135°21′19″	19991012 19991013		個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積	調査原因
大久保B遺跡 99－1区	大阪府泉南郡 熊取町大久保中 168	27361	15	34° 24′ 09″	135°20′50″	19991104		個人専用 住宅建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久保城跡98－4区	城郭跡	――――	近世溜池堤体	瓦器・中世須恵器・中世土師器・陶磁器	
久保城跡98－5区	城郭跡	――――	検出なし	古代土師器・中世土師器・中世包含層・器・瓦器・陶磁器	
祭礼御旅所跡98－1区	祭礼跡	――――	検出なし	検出なし	
東円寺跡99－1区	寺院跡	――――	検出なし	検出なし	
久保城跡98－4区	城郭跡	――――	検出なし	検出なし	
五門遺跡98－4区	散布地	――――	検出なし	検出なし	
大久保B遺跡99－1区	集落跡	――――	検出なし	検出なし	

熊取町埋蔵文化財調査報告第33集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XIV

発行日　平成12年3月

発行・編集　熊取教育委員会

大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷　小笠原印刷（株）

大阪府泉佐野市上瓦屋646番地